

平成 28 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	水稲出穂期以降のアカスジカスミカメ防除対策(追補)		
[要約] 現在使用されている斑点米カメムシ類の主要な防除剤の中で、ジノテフラン水溶剤が斑点米を抑制する期間が最も長い。					
キーワード	斑点米カメムシ類	斑点米	防除薬剤	環境部 病理昆虫研究室	

1 背景とねらい

斑点米カメムシ(アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ)は玄米の品質低下を引き起こし、県内で深刻な被害をもたらしている。

茎葉散布による薬剤防除は穂揃期 1 週間後を基本とし、追加防除が必要な場合は、その 1 週間後(穂揃期 2 週間後)に実施することとしてきたが、穂揃期 1 週間後にジノテフラン剤を茎葉散布した場合、追加散布はその 2 週間後(穂揃期 3 週間後)に実施することで効果が高いことが明らかになった(平成 24 年度成果)。しかし、ジノテフラン剤以外の薬剤について検討はされていない。

ここでは、ジノテフラン剤以外の主要な斑点米カメムシ類防除剤の斑点米を抑制する期間について整理する。

2 成果の内容

- (1) 斑点米カメムシ類に対し茎葉散布した場合、MEP 乳剤(商品名:スミチオン乳剤)、クロチアニジン水溶剤(商品名:ダントツ水溶剤)、エチプロール水和剤(商品名:キラップフロアブル)、ジノテフラン水溶剤(商品名:アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤)の斑点米を抑制する期間は異なっており、ジノテフラン水溶剤が最も長い(表 1)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 平成 27 年、平成 28 年における斑点米カメムシ類の発生は畦畔、本田ともに少発生であり、アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメの発生が見られた(表 2)。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域の水稲栽培指導者(農業普及員等)
- (2) 期待する活用効果 斑点米カメムシ類に対する防除指導に資する。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H26-01) 薬効特性を踏まえた斑点米カメムシ防除体系の検討[H26~28/国庫補助]

6 研究担当者 久保田真衣

7 参考資料・文献

- (1) 岩手県農業研究センター 平成 23 年度試験研究成果(指導)「アカスジカスミカメの斑点米形成時期」
- (2) 岩手県農業研究センター 平成 24 年度試験研究成果(指導)「水稲出穂期以降のアカスジカスミカメ防除対策」

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 斑点米カメムシ類防除試験(平成27年、28年)

年次	穂揃期1週間後の 供試薬剤	調査 粒数	斑点米				混入 率(%)	無処理 比	割れ粳率 (%)
			頂部	側部	その他	計			
平成 27年	スミチオン乳剤	10843	3	1	0	4	0.04	9.7	17.7
	ダントツ水溶剤	10680	4	1	0	5	0.05	12.3	25.2
	キラップフロアブル	10347	2	3	0	5	0.05	12.7	27.2
	対) アルバリン顆粒水溶剤	11351	1	1	0	2	0.02	4.6	27.3
	無処理	11790	4	40	1	45	0.38	(100)	23.0
平成 28年	スミチオン乳剤	31633	2	14	1	17	0.05	24.9	63.8
	ダントツ水溶剤	32256	0	20	0	20	0.06	28.7	69.3
	キラップフロアブル	33087	1	21	1	23	0.07	32.2	58.3
	対) アルバリン顆粒水溶剤	69002	6	2	1	9	0.01	6.0	71.7
	無処理	32895	4	64	3	71	0.22	(100)	65.0

【試験概要】

試験場所：農業研究センター内圃場 品種：あきたこまち 連制：2連制
 移植日：平成27年5月15日、平成28年5月16日
 穂揃期：平成27年8月2日、平成28年8月4日
 成熟期：平成27年9月15日、平成28年9月12日
 試験区：薬剤処理は2回散布とし、穂揃期約1週間後(1回目)および同約3週間後(2回目)に茎葉散布した。
 1回目散布は、それぞれスミチオン乳剤(1000倍)、ダントツ水溶剤(4000倍)、キラップフロアブル(2000倍)、アルバリン顆粒水溶剤(2000倍)を用い、2回目散布は各薬剤処理区ともアルバリン顆粒水溶剤(2000倍)を用いた。
 調査方法：成熟期に各薬剤処理区の中央部からランダムに穂を採集し(27年は100穂、28年は200穂、ただし対照区は500穂)、乾燥調整後に精玄米(粒厚1.9mm以上)の斑点米混入率を調査した。
 割れ粳率は、各区300粒について調査した。

表2 試験区に隣接する本田および畦畔に発生した斑点米カメムシ類累計

年次	本田内					畦畔				
	成虫		カスミカメ 幼虫	その他	計	成虫		カスミカメ 幼虫	その他	計
	アカシ	アヒゲ				アカシ	アヒゲ			
平成27年	9	13	2	0	24	1	19	11	0	31
平成28年	4	9	0	0	13	10	10	10	1	31

【調査概要】

出穂期前後から9月中旬まで、約7日間隔で往復20回のすくい取り調査を行った。表中の数字は、調査期間中にすくい取られた斑点米カメムシ類頭数の累計。畦畔はメヒシバ、チカラシバ、エノコログサ等が発生していた。畦畔は水稻出穂期以降の草刈りは実施していない。